

令和2年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る中間評価結果

領域番号	6003	領域略称名	ニュートリノ
研究領域名	ニュートリノで拓く素粒子と宇宙		
領域代表者名 (所属等)	中家 剛 (京都大学・理学部・教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる)

(評価結果の所見)

本研究領域は、世界最先端のニュートリノ実験を主軸として、素粒子・原子核、宇宙線・宇宙物理学にわたるニュートリノ研究の融合による新しい素粒子・宇宙像の構築を目指す研究である。

日本が優位性を持つニュートリノ研究を新しい段階へと進めており、全体として順調に進捗している。SK 及び T2K 実験では、95%の信頼度で CP 対称性が破れていることを示すなど、期待以上の成果も上がっている。海外との共同研究に支障がある中でも適切な対応が取られており、優れた領域運営がなされていると評価できる。著名な学術賞の受賞や若手研究者の活躍に象徴されるように、本研究領域はニュートリノ研究全体の底上げにも貢献している。

ハイパーカミオカンデの始動も決まり、今後更なる研究の進展が期待される。後半の2年間で素粒子と宇宙、実験と計算を結びつける新たな学理の創成を期待したい。